



CarGoods of the Year
SPECIAL INTERVIEW

傑作リリース、バックストーリー
作り手、送り手、先人インタビュー

「4年前の最初のモデルを出した時狭額縁化だろう。」
「やはりハイライトは、本体サイズを変えずに表示画面サイズを上げた狭額縁化だろう。」
「4年前の最初のモデルを出した時狭額縁化だろう。」

「今まで対応したプロジェクトのなかで、一番の商品に携わらせて頂いたと思っています」

パナソニック株式会社
オートモーティブ社
主任技師
酒井 憲 氏



「フ」ローディング構造をとった今の形態になって4年。スタート時の取り付可能車種が1

44車種だったのに対し、ほぼ4年でその数は400を超えた。



Panasonic
Strada
CN-F1X10BD
パナソニック 0120-50-8729
https://panasonic.jp/navi/



限界まで画面を拡げたカーナビステーションの次なる新機軸

幅広い車種に装着可能な特性を維持し、筐体のサイズを変えることなくモニター表示部を大幅拡大。一目瞭然のグレードアップを果たして、さらに商品力を向上させている。ブルーレイディスク再生を可能とする重厚なエンタメカも大画面でさらに生き、また前後2カメラモデルの設定で、ドライブレコーダーとの連携も相乗効果で大きく向上している。

「私としては、今まで対応したプロジェクトのなかでは、一番の商品に携わらせて頂いたと思っています。我々ができるベストを尽くして提供できた。やってよかったなど、自分にとっても自信になった商品です(酒井氏)」

「通常、ナビの設計・開発では採らない手法をとっています。とても大きな取り組みです。リスクもありながら製

「品化できたということですから(中川氏)」。ここまでやったからこそ、出来ることは全てにトライしている。「このモデルでは地デジやブルーレイを大画面で楽しんでもらえるように高画質のHD映像で再生できるようにしております(中川氏)」。

「他にも、今モデルから採り入れられた要素は多い。前後2チャンネルのドライブレコーダーに対応したのももちろん、逆走検知も検知ポイントを増やし、ETC2.0ユニットと連動することで青信号の時間も表示する。オリビックを目前に、インフラである道路標識も変わりつつあるため、こも地図データに反映する。ここまでやったからこそ、開発者の達成感も大きいのもかもしれない。」

パナソニック株式会社
オートモーティブ社
主任技師
中川 洋平 氏

「本当に自分が欲しいものを開発できたと思っています。もちろん、奥さんや子供も喜ぶようなものですね」



「ブレークスルーできたからこそ、やれることを全部やる」

いま、カー用品で出来ること
用品事典2020

限界まで画面を拡げたカーナビステーションの次なる新機軸



パナソニック
Strada
F1X PREMIUM10
CN-F1X10BD
パナソニック
0120-50-8729
https://panasonic.jp/navi/

幅広い車種に適用可能な特性を維持し、筐体のサイズを変えることなくモニター表示部を大幅拡大。一目瞭然のグレードアップを果たして、さらに商品力をアップさせている。ブルーレイディスク再生を可能とする重厚なエンタメカも大画面でさらに生き、また前後ドライブレコーダーとの連携も相乗効果で大きく向上している。



画面は上下に32mm、前後にマインス20度~60度、さらには左右に15度ずつ角度を変えられる。特に左右に首を振れることの利点は多大。大画面であることの見やすさが一層活きる。



画面も至って美しい。高精細であることに加え光の反射にも強い。太陽光が当たっても視認性が落ちることはほばない。また、広視野角が実現されているので斜めからでも実に見やすい。

「ドラレコ連携力」が高いことも大きな利点。前後2カメラタイプを用いると、ナビがルームミラーとしても機能する。ナビ画面のワンタッチキーを押せばすぐに後方映像に切り替わる。



圧倒的な「汎用力」を発揮
大画面を多くの
車種に！

大画面によって見やすさも
使いやすさも一層伸長

パナソニックの『ストラーダ F1X PREMIUM10』もまた、2019年に驚きを持って迎えられたスペシャルナビゲーションだ。当機がスペシャルである最大のポイントは、「大画面の汎用化に成功していること」。しかも最新モデルの旗艦機『F1X PREMIUM10』の2機種は、10型という大画面モデルながら搭載可能車種数は、なんと400超。圧倒的な数字を叩き出している。

なお、これまでの「汎用化」に成功しているのは、モニター部を浮かせる『DYNABIRD』ディスプレイが採用されているからだ。『Fシリーズ』の初代モデルから採用。そして『F1X PREMIUM10』の2機種は、そもそも絶妙な大きさに設計されていたディスプレイ部の外寸は変えずに、表示画面をその中で目一杯拡大させること

に成功。こうして、対応車種数を減らすことなく10型化を成し遂げた。また当機は、使いやすさが磨き上げられ、かつ安全安心運転サポート機能が充実していることも大きな利点。その上でトップエンドモデルはブルーレイディスクにも対応。エンタメカも優れている。ますます独自の利点を伸長させた新『ストラーダ F1X PREMIUM10』。大画面ナビが欲しければ、当機のチェックはマストだ。



「安全・安心サポート機能」も充実。走行している道路の制限速度、一時停止等々、注意が必要な情報を表示と音声で案内してくれる。写真は高速道路上での「逆走注意アラーム」。